

J R労働者が働きやすい環境づくりと社会に寄与する運動を作ろう！

東日本ユニオン 仙台地方本部

J R東日本労働組合仙台地方本部 発行責任者 阿部 勉 編集責任者 教宣部
仙台市宮城野区東六番丁31-2 NTT電話 022-221-7375 NTT FAX 022-221-7509
J R電話 031-3906 J RFAX 031-3909 メールアドレス unionsemdai@yahoo.co.jp

職場から闘いを構築しよう

第4回定期地方大会を開催

仙台地方本部は8月22日、仙台情報産業プラザ「アエル」で代議員19名を含む40名参加のもと、第4回定期大会を開催した。山形駅連合分会の進藤代議員を議長に選出し議事が進められ、2017年度運動方針をはじめとするすべての議案を満場一致で採択した。



方針の実践を確認し

ガンパロー三唱

竹嶋委員長は、冒頭に7月の九州北部、秋田県南部の豪雨で被害に遭われた方にお見舞いを申し上げたうえで、安全問題や春闘、組織

拡大などの課題に向き合い、「佐藤本部執行部を支え、仙台地本の組織強化と拡大を実現しよう」と組合員の奮起を促した。

質疑で発言した6名の代議員の多くが、エルダー制度に関する問題に触れ、早期の解明を訴えた。そのほかにも、組織の将来展望、JR連合への加盟問題、JR東日本ユニオン山形県協議会の活動のあり方や野生動物による輸送障害対策など多岐にわたり執行部の見解を求めた。

役員改選では、統一

委員長あいさつ(要旨)

九州北部と秋田県南部の記録的な豪雨により、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。JR発足から30年急激な世代交代と大量退職を迎え、安全文化が大きく変化している。安全確立は最優先課題であり、職場実態や作業手順に合わせた安全ルールを確立し、死亡事故ゼロの実現に取り組んでいかなければならない。



竹嶋 執行委員長

2017春闘は「一律6000円の賃上げ」を求めて闘ったが、

JR東労組の「格差ベア反対」のスト権問題が水を差す形となった。2018春闘に向け職場からの闘いの構築が必要だ。横浜・長野地本などで10名の組織拡大があった。若い社員から選ばれる労働組合として、引き続き取り組みの強化を要請する。山形地区の取組みにより、連合山形・山形交運労協に単組としてオプザーバー加盟を果たした。酒田地区との連携の足掛かりとした。

大会以降、3年間にわたり地方本部の運動をけん引してきた竹嶋委員長と佐藤書記長が退任し、阿部勉氏が委員長とする8名の新執行部が選出された。就任にあたり阿部委員長は「決められたことをしっかりと実行する」と新たな船出を力強い言葉で締めくくった。

部が選出された。就任にあたり阿部委員長は「決められたことをしっかりと実行する」と新たな船出を力強い言葉で締めくくった。

ご来賓

- ◎ 交運共済仙台事業所 伊賀泰 所長
- ◎ 仙台退職者連絡会 佐藤善利 会長

本部派遣役員

- ・ 大森中央執行副委員長・生田書記長・長澤組織担当部長・鳥屋組織担当部長・宮川組織担当部長

- 執行委員長 阿部 勉
- 執行副委員長 藤 義彦
- 永澤 守
- 書記長 関 一弘
- 執行委員 藤 久夫
- 齊藤 和則
- 遠藤 聡
- 石黒 弘美
- 松井 彦
- 監査 藤 和彦
- 会 佐藤 和耕
- 池 菊

代議員の発言

▼芦野光一 代議員



宮城連合分会では、エルダー組合員が執行委員長をしているが継続しても良いのか。思い通りの勤務地に配属されないのがエルダーの現状であり、不安を持っている。これから組織展望を示して欲しい。

▼佐藤敏之 代議員



労働条件の確立、組織拡大、要求の実現と大同団結一元化にはJR連合への加盟が必要と考える。加盟に向けた

運動を推し進めていた。適性検査が必要となる業種があるが、対応がまちまちである。本体とエルダー社員で違いがあるのか。

▼草薙智彦 代議員



11月に山形連合分会が結成されるが、この時期に分会交付金が減

6名の代議員から発言をいただいた。将来へ向かうユニオンが、何をし、何ができるかを確認した大会であった。

「労働者の一元化、労働環境の改善を唯一発信している組合に所属していることを全体で確認したい。」

安全の確立を最優先課題として全力で取り組んでいく。職場の代弁者として、他労組を巻き込み共闘出来る環境を創ってもらいたい。

6月に会社が提案した新たな「エルダー制度」は不透明

額された理由を聞かせて欲しい。あわせて、共闘費の増額も検討して欲しい。オプザーバー

加盟を果たした山形県協議会をユニオン内の位置づけて欲しい。交

運労協の鉄軌部会は、他労組と接点を持てる貴重な場となる。かつては、ユニオンが中心となり成果を上げてきた。地域共闘の強化が、結果としてJR連合加盟問題にも波及するもの

と考える。
▼藤本幸司 代議員



列車と動物が衝突する事故が頻発している。運転再開までに時間を要し、お客様に多大な迷惑をかけている。運転再開に向けたシステムの作りが必要と思う。乗務員の体験談を聞か

集約 答弁

仙台地本 佐藤光雄 書記長



な点が多く、当該組合員の声をもとに本部と連携し、解明に向け交渉を進める。

組織の整備強化に向けて役員育成が重要になる。2月に山形連合分会が結成される。3分会のコミュニケーションを基本に、相互扶助と団結が図られる取り組みを支援していく。

参加提言型運動の実践をお願いする。ともに働く仲間の視線に訴えるべく、連帯の中心に積極的に参加し、組織の将来展望につなげよう。

せて欲しい。対策があれば示して貰いたい。
▼加藤隆太郎 代議員



新しいエルダー制度の面談が始まっているが、なかなか情報が入ってこない。制度の変更点など説明がないまま行われるのは問題がある。今回の結果を多くの社員が注目している。
▼江口修 代議員



11月の山形連合分会結成に向け、新庄地区分会でも準備を進めている。今年度、エルダーとなる新庄駅の組合員2人が、系統が違うという理由で新庄テクノサービスでなく、山形

TTSが就労先として提示された。通勤事情により一人は再雇用を断念、もう一人も判断に迷っている。生れ年により新制度が適用されない不合理がある。対応をお願いしたい。

執行部答弁

○エルダー組合員の役員就任を制限するものではない。経験を現職組合員に伝えて欲しい。
○エルダー制度の該当者を対象にアンケートを取組み、実態の把握と追跡調査を行う。

○交付金の減額は、組合員の減少によるものだが、活動の停滞にならぬよう「共闘関係加盟費」を計上した。

○動物と衝突には取扱いマニュアルがある。支社間の相違点など交渉で明らかにしたい。

組合員の異動

▽9月1日(敬称略)
熊谷勝則(山形運輸区 ↓TEC山形) 関